授業科目	歯科診療補助法Ⅲ(審美歯科含む)	担当教員	橋本　李奈		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	最新の歯科診療における知識を深め、技能および技術を習得する。習得した知識・技能・技術を実習をとおして確認・定着を図る。				
到達目標	スポーツ歯科における歯科衛生士の役割を述べることができる。インプラント治療の補助ができる。レーザー治療の補助ができる。 障がい者の歯科治療の補助ができる。口腔筋機能訓練ができる。歯科材料の理工学的知識を深める。				
テキスト・参考図書等	・スポーツ歯科入門ハンドブック(医学情報社)　・歯科衛生士のためのインプラントメインテナンス（医歯薬出版） ・最新歯科衛生士教本　「歯科機器」（医歯薬出版）　・最新歯科衛生士教本　「歯科材料」（医歯薬出版） ・最新歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習・技能点 10%
レポート	10	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項	①講義では知識を深める。　②演習・実習では、技能を習得する。　③決められた期日にレポートを提出する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	審美歯科 1　（橋本）	審美歯科ー総論
2	審美歯科 2　（佃）	審美歯科ー各論
3	審美歯科 3　（佃）	ホワイトニングー概論
4	審美歯科 4　（佃）	ホワイトニングー各論
5	審美歯科 5　（佃）	ホワイトニング実習 1
6	審美歯科 6 （橋本）	ホワイトニング実習 2
7	審美歯科 7 （橋本）	審美歯科・ホワイトニングにおける歯科衛生士としての役割
8	美容歯科（デンタルエステ）1（藤澤）	デンタルエステに必要な基礎知識（表情筋、血流など）
9	美容歯科（デンタルエステ）2（木村）	美容歯科とは、効果効能、皮膚、美容歯科でアプローチする筋肉、コリの確認
10	美容歯科（デンタルエステ）3（木村）	実習 1：口腔外のマッサージ練習
11	美容歯科（デンタルエステ）4（橋本）	実習 2：口腔外のマッサージ実技評価
12	美容歯科（デンタルエステ）5（木村）	実習 3：口腔内のマッサージ練習
13	美容歯科（デンタルエステ）6（橋本）	実習 4：口腔内のマッサージ実技評価
14	美容歯科（デンタルエステ）7 木村）	実習 5：リップケア技術
15	美容歯科（デンタルエステ）8（木村）	実習 6：ガムビーリング練習
16	美容歯科（デンタルエステ）9（橋本）	実習 7：リップガムビーリング実技評価
17	美容歯科（デンタルエステ）10（橋本）	実習 8：臨床における口腔内外マッサージ技術評価
18	美容歯科（デンタルエステ）11（橋本）	実習 9：臨床における口腔内外マッサージ技術練習

	19	美容歯科（デンタルエステ）12（菅原）	人の身体に触れること
	20	美容歯科（デンタルエステ）13（菅原）	表情筋の特殊性
	21	美容歯科（デンタルエステ）14（菅原）	美容の皮膚科学
	22	美容歯科（デンタルエステ）15（菅原）	東洋医学で診る歯と口腔
	23	美容歯科（デンタルエステ）（菅原）	診察台で診てみよう
	24	美容歯科（デンタルエステ）（藤澤）	美容歯科からアプローチする顔面の皮膚、筋肉、血流、リンパの知識評価
	25	美容歯科（デンタルエステ）（橋本）	ホワイトニング用のスタディモデル作成実習
	26	美容歯科（ホワイトニング）1（朝見）	ホームホワイトニング実習 1（上下顎）
	27	美容歯科（ホワイトニング）2（朝見）	ホームホワイトニング実習 2（上下顎）
	28	美容歯科（ホワイトニング）3（朝見）	オフィスホワイトニング実習 3（マネキン）
	29	美容歯科（ホワイトニング）4（朝見）	オフィスホワイトニング実習 4（マネキン）
	30	総括（橋本）	審美歯科と美容歯科に関連する問題と解説

授業科目	歯科診療補助法Ⅲ(審美歯科含む)	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	障害者歯科学	担当教員	松岡　円		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	障害者に対する歯科診療を理解し、適切な診療補助を行うための知識を習得する。				
到達目標	歯科診療に影響する障害について述べることができる。歯科診療時の障害者への対応法を述べることができる。障害者の口腔管理について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書、プリントを中心とした授業を行い、随時演習や小テストを行う。 ②講義中の質問や発言は歓迎しますので、積極的に授業に参加する。 ③大人としてのマナーを持った授業態度で受講する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	1 章　障害者の現状	障害と障害者について社会的視点
	2	1 章　障害者の現状	障害の発生要因を概説
	3	2 章　障害者の歯科診療	小児・成人・高齢の障害者にみられる歯科的特性
	4	2 章　障害者の歯科診療	歯科保健・治療における行動調整の種類と特徴
	5	3 章　障害の種類と歯科的特徴	障害別の歯および口腔の形態的・機能的特徴①
	6	3 章　障害の種類と歯科的特徴	障害別の歯および口腔の形態的・機能的特徴②
	7	4 章　障害者と薬剤	障害者に多い服用薬剤の種類と用途
	8	障害歯科とは	障害歯科とは何かを考える、実際の体験と医療受信 DVD 鑑賞
	9	障害歯科の医療体制	一次医療・二次医療、三次医療機関の役割、福祉・ネットワーク
	10	コミュニケーション	発信と受信について、知らせることについて、補助代替コミュニケーション
	11	体動コントロール、発達障害について学ぶ	麻痺・過敏・反射・開口誘導、自閉症スペクトラム症を学ぶ
	12	視覚支援について①	視覚支援とは何かを理解する、実際にカード作りを行う
	13	視覚支援について②	実際にカード作りを行う、歯磨き絵カード作り
	14	行動療法、行動療法の名称をカードを利用して覚える	行動分析・TSD、トークンエコノミー、強化子
	15	今後の障害歯科への関わり	患者を通じて考える。グループワーク、医療受信 DVD の感想

授業科目	障害者歯科学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	高齢者歯科学	担当教員	山崎　裕		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	歯科衛生士として高齢者歯科の基礎と臨床において必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	高齢者の口腔の働き、役割の重要性を述べることができる。高齢者の心身的・社会的特性を述べることができる。高齢者の歯科治療の理論と実践ができる。高齢者の保健指導および要介護高齢者への対応ができるようにする。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①定期試験 70% ②授業・調理実習時の出席点 30%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	30	

履修上の留意事項	基本的に講義を中心とするが　高齢者または高齢者歯科に関するテーマを挙げ、ディスカッションすることもある。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	Ⅰ高齢者をとりまく社会と環境①　(山崎)	高齢者歯科と歯科衛生士の役割、高齢者をとりまく社会・環境について学ぶ
	2	Ⅰ高齢者をとりまく社会と環境②　(山崎)	高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴について学ぶ
	3	Ⅱ加齢による身体的・精神的変化と疾病①　(山崎)	加齢に伴う身体的機能、精神・心理的変化について学ぶ
	4	Ⅱ加齢による身体的・精神的変化と疾病②　(山崎)	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 1.主たる死因となる疾患について学ぶ
	5	Ⅱ加齢による身体的・精神的変化と疾病③　(山崎)	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患 2.高齢者に特有な口腔の疾患について学ぶ
	6	Ⅲ高齢者の状態の把握①(山崎)	高齢者の生活機能の評価について学ぶ
	7	Ⅲ高齢者の状態の把握②(山崎)	高齢者歯科と臨床検査について学ぶ
	8	Ⅲ高齢者の状態の把握③(山崎)	高齢者の栄養状態と薬剤服用について学ぶ
	9	高齢者に対する食指導・食支援１　(大島)	障害に応じた食物形態、高齢者の栄養管理
	10	高齢者に対する食指導・食支援２　(大島)	障害に応じた食物形態、栄養管理(実習を含む)
	11	Ⅳ口腔のケア①　(瀧川)	高齢者に対する口腔のケアについて学ぶ。 1.口腔のケアにおける高齢者の特徴　2.口腔のケア用品 3.要介護高齢者の訪問保健指導の実際　4.臨床現場における歯科衛生士の役割
	12	Ⅳ口腔のケア②　(瀧川)	1.急性期の口腔衛生管理　2.留意すべき全身疾患と口腔衛生管理　3.要介護高齢者における口腔のケアの意義、4.要介護高齢者に対する歯科治療の目標設定と目安
	13	Ⅳ口腔のケア③実習　(瀧川)	口腔ケアの実際：器質的、機能的口腔のケア
	14	Ⅵ高齢者に関わる医療と介護　(瀧川)	1.在宅訪問診療の概要　2.歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 3.かかりつけ歯科の役割　4.訪問看護と歯科の役割
	15	まとめ　(瀧川)	問題演習と確認

授業科目	高齢者歯科学	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	衛生行政・関係法規	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	歯科衛生をはじめ、医療・保健・福祉に関する法規や行政の仕組み、社会福祉や社会保険制度など医療保障の施策について学ぶ。				
到達目標	衛生行政の目的および医療関係法規の概要を述べることができる。歯科衛生士法の目的、内容について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律・制度」(医歯薬出版)　・プリント　・その他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	①定期試験 60% ②レポート 20% ③提出物 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書・スライド・プリント等を使用予定。　②歯科衛生士というプロフェッショナルを支える制度的なバックボーンを学ぶ機会となる。 ③社会に出てから学ぶ機会は少ないので、プロとして最低限の知識を修得するよう心掛ける。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	歯科衛生士と法律①　(藤澤)	衛生行政の目的と組織
	2	歯科衛生士と法律②　(藤澤)	歯科衛生士法について
	3	歯科衛生士と法律③　(藤澤)	歯科衛生士の業務・諸手続
	4	歯科衛生士と法律④　(藤澤)	歯科医師法・歯科技工士法
	5	歯科衛生士と法律⑤　(藤澤)	歯科口腔保健の推進に関する法律・医療法
	6	医療関係職種①　(藤澤)	歯科医療と関わる医療関係職種にかかる法律①
	7	医療関係職種②　(藤澤)	歯科医療と関わる医療関係職種にかかる法律②
	8	その他の関係法規①　(藤澤)	薬事衛生法規
	9	その他の関係法規②　(藤澤)	保健衛生法規、予防衛生法規
	10	まとめ　(小畑)	総まとめ

授業科目	衛生行政・関係法規	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	卒業研究	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	学生の興味・将来の方向性に沿って、テーマを設定し、計画・立案・研究・まとめ(発表)の活動を通して、自ら研究する意欲と学び方を身につける。				
到達目標	自分の興味、方向性に即して研究テーマを設定できる。EBM/EBH の概念を説明できる。研究の計画・立案ができる。実験・調査などの研究が実施できる。実験・調査などの結果を整理・分析できる。結果分析に基づき、新たな課題を抽出、提起できる。関連の研究結果を発表できる。				
テキスト・参考図書等	・参考書：日本歯科衛生士会学術雑誌(日本歯科衛生学会)　北海道歯科衛生士会学術大会報告書(北海道歯科衛生士会)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①プレゼンスライド 25% ②プレゼン能力 25% ③卒業研究抄録の完成度 25% ④出席点 25%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	①研究テーマを検討　②研究計画に基づく研究の実施報告　③研究データの整理、分析 ④研究発表　⑤自発的に課題に取り組む姿勢

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	卒業研究の概要 1 （藤澤）	主な研究方法、症例研究、記述研究、調査研究、実験研究など
	2	研究方法の概要 1 （藤澤）	研究の進め方 1～文献を読む ・研究テーマ、目的、対象、結果、考察、まとめ
	3	研究方法の概要 2 （藤澤）	研究の進め方 2～研究の手順 ・研究テーマ、目的、対象、結果、考察、まとめ
	4	研究方法の概要 3 （藤澤）	研究の進め方 3～研究計画の検討 ・テーマと対象および方法の検討
	5	研究の実施 1 （藤澤）	研究テーマの情報収集・情報処理 1～パワーポイントの使い方
	6	研究の実施 2 （藤澤）	研究テーマの情報収集・情報処理 2～目的、結果、考察の検討 1
	7	研究の実施 3 （藤澤）	研究テーマの情報の整理・分類 1～目的、結果、考察の検討 2
	8	研究の実施 4 （藤澤）	研究テーマの情報の整理・分類 1～結果スライド作成
	9	研究結果のまとめ （藤澤）	プレゼンテーション用のスライド作成 1
	10	研究結果のまとめ （藤澤）	プレゼンテーション用のスライド作成 2
	11	研究中間発表会 （松本）	研究成果中間発表
	12	中間評価に基づく研究の再検討 （松本）	中間評価に基づく研究内容の再検討と調整
	13	抄録作成 （松本）	抄録の書き方の解説、抄録作成
	14	研究発表会 1 （松本）	研究発表:プレゼンテーション 1
	15	研究発表会 2 （松本）	研究発表:プレゼンテーション 2

授業科目	卒業研究	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	摂食嚥下	担当教員	藤本　篤士		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	傷病や障害あるいは加齢による口腔機能低下を予防する上で、口腔機能のリハビリテーションの重要性が高まっている。摂食・嚥下について認識を深め、摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎知識・技術の習得をする。				
到達目標	摂食・嚥下リハビリテーションの概念やメカニズム、発達・障害の状態を理解し各期の摂食・嚥下障害の特徴や変化、歯科衛生士の実践についての考え方や方法および訓練方法、多職種との連携など摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	①定期試験 70% ②小テスト 20% ③レポート点 10%
	レポート	10	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①質疑応答を行う双方向授業　②プリントや板書を中心に講義形式の授業　③相互実習、ワークショップを実施する。　④提出物は期日を守ること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	日本の高齢化と老化 (藤本)	日本の高齢者の現状と加齢に伴う身体的、精神的、心理的変化
	2	老化と栄養と口腔　(藤本)	日本の高齢化と高齢者の摂食について理解する
	3	摂食・嚥下の基礎 1　(藤本)	摂食・嚥下に関わる構造の理解
	4	摂食・嚥下の基礎 2　(藤本)	高齢者の摂食・嚥下障害に関わる因子、加齢による影響を理解する
	5	摂食・嚥下障害への対応 1 (藤本)	摂食・嚥下障害の検査方法と治療について理解する
	6	摂食・嚥下障害への対応 2 (藤本)	高齢者の摂食・嚥下障害に応じた食物形態、栄養管理 NST について理解する
	7	高齢者の誤嚥　(藤本)	高齢者の誤嚥について理解する
	8	誤嚥の評価と誤嚥防止のための機能訓練　(藤本)	誤嚥について評価と誤嚥予防のための機能訓練
	9	摂食・嚥下リハビリテーションの概論　(小山田)	摂食・嚥下リハビリテーションの進め方には共通の概念があることを理解する
	10	摂食・嚥下機能の発達、小児の摂食・嚥下障害　(小山田〉	口腔領域の形態成長と関連して機能発達の過程を理解する。小児の摂食・嚥下障害を引き起こす要因、障害別の特徴を理解する
	11	リスクマネジメント、認知症への対応　(小山田)	リスクマネジメント、摂食リハビリテーションと口腔のケア
	12	在宅訪問歯科診療、介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション　(小山田)	在宅における摂食・嚥下リハビリテーションの特徴、歯科衛生士の役割、症例
	13	高齢者に関わる医療と介護 (小山田)	在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる介護保険の概要
	14	摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス (小山田)	歯科衛生ケアプロセス、ケアプロセスの展開(実習)、アセスメント、計画、実施・記録、評価
	15	まとめ　(小山田)	摂食・嚥下に関する確認問題の演習と解説

授業科目	摂食嚥下	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科保健指導法III	担当教員	松岡　円		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	歯科衛生士ができる禁煙支援、要介護高齢者の全身疾患を考慮した指導方法を理解する。歯科衛生過程について理解を深める。				
到達目標	診療室で禁煙支援ができる。配慮を要する者への指導ができる。全身疾患患者の口腔保健管理ができる。対象者に応じた歯科衛生過程を作成できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)　・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」(医歯薬出版) ・歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック(医歯薬出版)　・口腔ケアの基礎知識(永末書店)　・配布プリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習・技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義と演習、講義と実習の同時進行。　②決められた期日にレポートを提出する。 ③授業に使用する教材を忘れない。　④歯科衛生士としての診療室のマネジメントを考えること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❶（藤澤）	1 章－❶歯科衛生過程の概要　❷歯科衛生過程の各構成要素
	2	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❷ー1（藤澤）	1 章－❷歯科衛生海底の各構成要素 1.歯科衛生アセスメント　2.歯科衛生診断
	3	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❷ー2（藤澤）	1 章－❷歯科衛生海底の各構成要素　3.歯科衛生計画 3.歯科衛生介入
	4	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❷ー3（藤澤）	1 章－❷歯科衛生海底の各構成要素　5.歯科衛生評価 6.記録
	5	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❷ー4（藤澤）	1 章－❷歯科衛生海底の各構成要素　症例検討（う蝕治療編）
	6	III編　1 章歯科衛生過程の進め方❷ー5（藤澤）	2 章－❷歯科衛生海底の各構成要素　症例検討（歯周疾患治療編）
	7	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー1（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 1　タバコと全身
	8	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー2（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 2　歯周病と喫煙
	9	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー3（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 3　喫煙状況のアセスメント 動機づけ支援と面接
	10	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー4（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 4　禁煙支援のポイント 動機づけ支援と面接
	11	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー5（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 5　行動科学理論と禁煙支援
	12	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー6（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 6　歯科での禁煙支援の実際
	13	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー7（橋本）	4 章－生活習慣の指導　2.喫煙者に対する指導 7 ライフステージと禁煙支援・防煙教育
	14	II編　4 章保健行動支援のための基礎知識　❶　❷	4 章－❶行動変容のに関連する理論　❷行動変容を促す理論の実践

		（藤澤）	
	15	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❹（橋本）	4 章－❹ストレスマネジメント
	16	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー1（松岡）	4 章－❸生活習慣の指導　循環器系疾患・高血圧症
	17	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー2（松岡）	4 章－❸生活習慣の指導　がん
	18	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー3（松岡）	6 章－❸生活習慣の指導　呼吸器系疾患
	19	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー4（松岡）	7 章－❸生活習慣の指導　糖尿病・脂質異常
	20	III編　4 章歯科衛生介入としての歯科保健指導❸ー5（松岡）	8 章－❸生活習慣の指導　免疫疾患
	21	全身疾患患者の対応 6（介護講習会 1：田中）	配慮を要する者への実習：介護実習 1（認知症などの理解）
	22	全身疾患患者の対応 7（介護講習会 2：田中）	配慮を要する者への実習：介護実習 2（体位交換，移乗、安楽な姿勢）
	23	全身疾患患者の対応 8（介護講習会 3：田中）	配慮を要する者への実習：介護実習 3（車いすの取り扱い実習）
	24	全身疾患患者の対応 9（嚥下訓練 1：稲垣）	唾液の機能、成分と嚥下訓練 1
	25	全身疾患患者の対応 10（嚥下訓練 2：稲垣）	舌の運動と味覚と嚥下訓練 2
	26	全身疾患患者の対応 11（嚥下訓練 3：稲垣）	口腔乾燥症と嚥下訓練効果
	27	全身疾患患者の対応 12（総括 1：橋本）	歯科衛生過程　事例 1（高齢者の生活機能評価）
	28	全身疾患患者の対応 13（総括 2：橋本）	歯科衛生過程　事例 2（高齢者の認知機能の評価）
	29	全身疾患患者の対応 14（総括 3：橋本）	歯科衛生過程　事例 3（高齢者歯科と臨床検査　バイタルサイン評価）
	30	全身疾患患者の対応 15（総括 4：橋本）	歯科衛生過程　事例 4（高齢者歯科と臨床検査　血液検査の評価）

授業科目	歯科保健指導法III	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	総合演習	担当教員	藤澤　雅子		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	1 年、2 年で習得した知識や技能、臨床実習で習得した技術をもとに、総合的理解力や判断力を養う。				
到達目標	診療室での医療安全管理や診療時の救急処置を適切に行うための方法や対応ついて述べることができ、実践できる。 歯科衛生士国家試験に出題される問題を解くための知識を再確認する。				
テキスト・参考図書等	・校内模擬試験問題・解説書　　・2023 年度対応　歯科衛生士国家試験対策集　　・徹底分析 年度別　歯科衛生士国家試験問題集 ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」(医歯薬出版)　　・最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③出席点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義では、知識を深める。　②演習では、判断力や理解力をつける。 ③毎回、授業で使用する教本が違うので、指示された教本を忘れずに持参する。　④レポートの提出は期限厳守、評価に加味する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	スポーツ歯科 1（川西）	スポーツ歯科の基礎知識
	2	スポーツ歯科 2（川西）	マウスガードの必要性
	3	スポーツ歯科 3（川西）	マウスガードの作成過程
	4	スポーツ歯科 4（橋本）	マウスガード作製実習 1
	5	スポーツ歯科 5（橋本）	マウスガード作製実習 2
	6	スポーツ歯科に関連する知識（藤澤）	マウスガード作製時の注意事項
	7	口腔機能訓練 1（星）	口腔機能訓練とは
	8	口腔機能訓練 2（星）	口腔習癖の種類と指しゃぶり指導
	9	口腔機能訓練 3（星）	舌突出癖の発育への影響―構音指導と MFT、舌突出癖の指導
	10	口腔 j 機能訓練に関連する知識（藤澤）	口腔機能訓練に必要な基礎知識
	11	災害時の保健活動 1 (荒谷)	被災地での歯科保健活動
	12	災害時の保健活動 2 (荒谷)	普通救命処置実習 1
	13	災害時の保健活動 3 (荒谷)	普通救命処置実習 2
	14	災害時の歯科保健活動 4 (藤澤)	災害時の歯科保健活動
	15	口腔マネジメント 1（藤澤）	歯科保険制度における歯科診療報酬の概要
	16	口腔マネジメント 2（杉田）	歯科治療と予防歯科　診療報酬の違い 1
	17	口腔マネジメント 3（杉田）	歯科治療と予防歯科　診療報酬の違い 2
	18	口腔マネジメント 4（杉田）	歯科治療と予防歯科　う蝕予防編
	19	口腔マネジメント 5（杉田）	歯科治療と予防歯科　歯周治療編
	20	歯科理工学 1（池田）	歯科衛生学科材料の性質

	21	歯科理工学 2（池田）	印象材（総論、アルジネート、寒天）
	22	歯科理工学 3（池田）	印象材（ゴム質印象材、その他）
	23	歯科理工学 4（池田）	レジン材
	24	歯科理工学 5（池田）	レジン充填材、修復用セメント材
	25	歯科理工学 6（池田）	合着材
	26	歯科理工学 7（池田）	石膏、金属材料
	27	歯科理工学 8（池田）	材料学のまとめ
	28	まとめ 1　（藤澤）	総合問題の解き方、解答の導き方演習 1
	29	まとめ 2　（藤澤）	総合問題の解き方、解答の導き方演習 2
	30	まとめ 3　（藤澤）	総合問題の解き方、解答の導き方演習 3

授業科目	総合演習	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨地・臨床実習Ⅲ	担当教員	伊藤　彩		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	180 回	時間数	360 時間
授業目的	歯科衛生士としての必要な資質・能力を磨くため、歯科診療室での歯科衛生士の業務を見学する。障害児の歯科治療の補助、介助を実習する。				
到達目標	歯科診療の補助、介助がスムーズに行える。患者別に SOAP 方式で業務記録を作成することができる。				
テキスト・参考図書等	歯科医院実習：臨床実習帳、メモ帳、筆記用具、白衣、エプロン、実習靴、グローブ、マスク、スケーラーセット、顎模型、口腔ケアセットなど				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	＊評価基準 A:優れている(助言なしでもほぼできる)　B:できるが発展性がない(多くの助言・指導があればできる) C:劣っている(多くの助言・指導があってもできない) D:見学・実習をしていない(出席日数不足) ＊評価項目 ①医療従事者としての基本姿勢、態度　　②月別実習項目の知識 ③月別実習項目の技能 ①～③をそれぞれ評価後、総合評価する：A(80～100 点)、B(70～79 点)、C(60～69 点)、D(59 点以下)
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	①歯科医院の診療室で主に見学実習を行う。　②肢体不自由児療育センターで主に障害児の対応を見学する。　③体調管理に気を付ける（欠席、遅刻、早退は厳禁)。　④実習生のマナーとして:清潔な白衣、エプロン、実習靴、マスク、グローブを身につける。化粧・毛染めはしない、頭髪、爪、ピアスは外す。挨拶、返事、丁寧な言葉遣いを心がける。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	臨床実習	
	2	歯科医院実習	治療計画に従って、診療の介助ができる。、治療の流れにそって、診療の補助ができる。
	3	病院歯科実習	全身疾患をもった患者の歯科治療業務を実習する。、多職種の業務を理解し、連携を図れる。
	4		
	5	臨地実習	
	6	医療療育センター歯科実習	肢体不自由児の歯科治療の補助・介助をする。
	7		
	8	計 56 日間	

授業科目	臨地・臨床実習III	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	歯科予防処置法III	担当教員	松本　崇嗣		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	症例に応じた口腔保健管理を理解する。				
到達目標	臨床現場の歯周疾患の治療を説明できる。症例別にプラークコントロールができる。ホワイトニングの知識と実習を体験する。バイオフィルムやプラークから細菌の特徴を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯周病学」(医歯薬出版)　・最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版) ・歯科衛生士ベーシックスタンダードホワイトニング(医歯薬出版)　・ケース対応 3 ステップでみる PC のテクニック(永末書店)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①定期試験 80% ②レポート 10% ③実習・技能点 10%
	レポート	10	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	①講義・演習・実習、講義と演習、講義と実習の同時進行。　②使用する教材を忘れないこと。 ③提出物の期限を守ること。　④積極的に意見をのべること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	III編　1 章歯科衛生過程の進め方（松本）	1 章ー❶歯科衛生過程の概要
	2	II 編　4 章保健行動支援のための基礎知識	4 章ー❶行動変容に関連する理論　❷行動変容を促す理論の実践
	3	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 1）	1 章ー❹学童期の歯科衛生介入（叢生部、歯列不正部位の保健管理）
	4	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 2）	1 章ー❺青年期の歯科衛生介入（矯正装置を装着した人への保健管理）
	5	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 3）	1 章ー❺成人期の歯科衛生介入（ブリッジ、ルートセパレーションの保健管理）
	6	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 4）	1 章ー❺成人期の歯科衛生介入（知覚過敏症、テンションリッジの保健管理）
	7	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 5）	1 章ー❺成人期の歯科衛生介入（FMD、 3 DS の保健管理）
	8	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 6）	1 章ー❺成人期の歯科衛生介入（咬合性外傷と外傷性咬合の保健管理）
	9	II 編　4 章保健行動支援のための基礎知識	4 章ー❶行動変容に関連する理論　❷行動変容を促す理論の実践
	10	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 7）	1 章ー❺老人期の歯科衛生介入（歯肉膿瘍・歯周膿瘍、歯周外科後の保健管理）
	11	IV編　1 章ライフステージに対応しか歯科衛生介入（症例 8）	1 章ー❺老人期の歯科衛生介入（トンネリング、トライセクションの保健管理）
	12	IV編　1 章ライフステージに対応した歯科衛生介入（まとめ）	2 章ーライフステージに対応した口腔保健管理
	13	II 編　2 章う蝕と歯周病の基礎知識（松本）	2 章ー❺歯周病　3.歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴

	14	Ⅱ編　2 章う蝕と歯周病の基礎知識（松本）	2 章ー❺歯周病　4.歯肉炎と歯周炎の進行プロセス　5.歯周病の原因
	15	Ⅱ編　2 章う蝕と歯周病の基礎知識（松本）	2 章ー❺歯周病　6.歯周病に影響を与える疾患
	16	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 1：松本）	2 章ー糖尿病が歯周病リスクになるメカニズム（演習）
	17	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 2：松本）	2 章ー血管障害が歯周病リスクとなるメカニズム（演習）
	18	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 3：松本）	2 章ー肥満が歯周病リスクとなるメカニズム（演習）
	19	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 4：松本）	早産・低体重児出産が歯周病リスクになるメカニズム（演習）
	20	症例検討実習 1　（橋本）	模擬患者実習におけるオリエンティーション
	21	症例検討実習 2　（橋本）	模擬患者実習 1
	22	症例検討実習 3　（橋本）	模擬患者実習 2
	23	症例検討実習 4　（橋本）	模擬患者実習 3
	24	症例検討実習 5　（橋本）	模擬患者実習 4
	25	症例検討実習 6　（橋本）	模擬患者実習 5
	26	症例検討実習 7　（橋本）	模擬患者実習後の写真、模型、業務記録の整理
	27	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 5：松本）	骨粗鬆症が歯周病リスクになるメカニズム（演習）
	28	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 6：松本）	関節リュマチが歯周病リスクになるメカニズム（演習）
	29	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 7：松本）	総括：ペリオドンタルメディシン（歯周医学）の評価
	30	Ⅳ編　2 章配慮を要する者への歯科衛生介入（歯周医学 8：松本）	総括：ペリオドンタルメディシン（歯周医学）の評価
	31	口腔常在微生物 1　（長谷部）	口腔の防御体制
	32	口腔常在微生物 2　（長谷部）	細菌を認識する TLR
	33	口腔常在微生物 3　（長谷部）	口腔内微生物の分布
	34	プラークバイオフィルム(長谷部)	プラーク細菌の代謝
	35	う蝕原性バイオフィルム(長谷部)	甘味料とう蝕誘因性
	36	歯周病原性嫌気性菌 1(長谷部)	プラーク細菌の歯周病性因子
	37	歯周病原性嫌気性菌 2(長谷部)	歯周病抗菌薬療法
	38	全身疾患とデンタルプラーク細菌　（長谷部）	老人性肺炎、糖尿病への関与
	39	口腔内感染症　（長谷部）	口腔粘膜とヘルペスウイルス
	40	口腔外感染症　（長谷部）	MRSA、ウイルス、インフルエンザと SARS
	41	バイオフィルム問題　（長谷部）	デンタルプラークと細菌の関連演習とレポート作成
	42	総合演習 1　（長谷部）	問題演習と解説
	43	総合演習 2　（長谷部）	問題演習と解説
	44	総合演習 3　（長谷部）	問題演習と解説

	45	総合演習 4　（長谷部）	問題演習と解説

授業科目	歯科予防処置法III	担当教員 実務経験		
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		